

南平岸を訪ねて

天神山から見下る南平岸の街並み

かつては農業が盛んで、リンゴ園が一面に広がっていた南平岸地区。

今では、地下鉄駅周辺を中心に大型の集合住宅が立ち並ぶなどすっかり様変わりし、幹線沿いの商店街がにぎわいを見せています。

今回の特集では、南平岸地区にある名所や見どころ、地域で取り組んでいる活動などを紹介します。

見どころ①

四季や歴史を身近に感じる天神山

市街化が進んだこの地域ですが、身近なところにはまだ多くの自然が残っています。地区の南側には、標高85メートルの天神山があり、周囲には木々に囲まれた天神山緑地が広がっています。

緑地の中にある日本庭園や広場は、一年を通して自然が四季折々の変化を見せることから、散策を楽しむ人の憩いの場となっています。特に春先には、いくつもの品種のサクラが時期をずらして次々に花を咲かせ、長い期間にわたって楽しめるため、多くの市民が訪れます。



見事な花を咲かせるサクラ

天神山の周辺には、古代の遺跡や開拓時代をしのぶ記念碑などが残されているのも特徴です。

山の西端には、約5千年前の縄文文化中期ごろの遺跡や「チャシ」(とりで)跡が残されています。また、緑地の中には、この地がかつてリンゴ栽培の中心地であったことを後世に伝えるため、北海道にゆかりの深い石川啄木の歌が刻まれた「平岸林檎園記念歌碑」が建立されています。



平岸林檎園記念歌碑例祭

平岸小学校

南平岸まちづくりセンター

愛称は地域の方から募集し
1月20日に決定しました

白石藻岩通 (愛称「りんご坂通り」)

至中の島

世代を超えて取り組む「花いっぱい運動」

取り組み①

この地区では、地域住民と小中学生と一緒に花を植える「花いっぱい運動」を地域全体で行っています。

花を通じたふれあいの場を活用し、子どもたちがまちづくり活動に参加するきっかけとして始めたこの活動。まち全体を美しくするだけでなく、世代間の交流なども積極的に行われています。

平成15年から始まった取り組みは、今では6つの小中学校、20の町内会、商店街などから総勢約2,000人が参加し、植える花株は19,000株にもなる大規模な行事となっています。



平岸街道(国道453号)

至豊平